

国家安全保障戦略（概要）

1 国際秩序が重大な挑戦に晒され、国際関係において地政学的競争や地球規模課題への対応等、対立と協力の様相が複雑に絡み合う時代。

我が国は、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面。周辺国・地域が急速に軍備増強。力による一方的な現状変更の試みが増加。有事・平時と軍事・非軍事の境目が曖昧に。

伝統的な外交・防衛のみならず、経済・技術など多岐にわたる安全保障上の問題が生起。我が国は、国益を守るべく、総合的な国力を有機的かつ効率的に活用する。

【各国・地域の安全保障上の動向】

中国

現在の中国の対外的な姿勢や軍事動向等は、我が国と国際社会の深刻な懸念事項であり、我が国の平和と安全及び国際社会の平和と安定を確保し、法の支配に基づく国際秩序を強化する上で、これまでにない最大の戦略的な挑戦であり、我が国の総合的な国力と同盟国・同志国等との連携により対応すべきもの。

北朝鮮

北朝鮮の軍事動向は、我が国の安全保障にとって、従前よりも一層重大かつ差し迫った脅威となっている。

ロシア

ロシアの対外的な活動、軍事動向等は、今回のウクライナ侵略等によって、国際秩序の根幹を揺るがし、欧州方面においては安全保障上の最も重大かつ直接の脅威と受け止められている。また、我が国を含むインド太平洋地域におけるロシアの対外的な活動、軍事動向等は、中国との戦略的な連携と相まって、安全保障上の強い懸念である。

2 「戦略」は、戦後の我が国の安全保障政策を実践面から大きく転換。今後取り組む施策の代表的なものは次のとおり。

- ① 「自由で開かれたインド太平洋」というビジョンの下での外交の展開
- ② 反撃能力の保有を含む防衛力の抜本的強化
- ③ 防衛力抜本的強化を補完し、不可分一体のものとして、総合的な防衛体制を強化
- ④ 安全保障上意義が高い防衛装備移転等を円滑に行うための防衛装備移転三原則や運用指針等の見直しの検討
- ⑤ 能動的サイバー防御の導入とサイバー安保を一元的に総合調整する組織の新設
- ⑥ 海上保安能力の大幅な強化と体制の拡充
- ⑦ 経済安全保障政策の促進

3 2027年度において、防衛力の抜本的強化とそれを補完する取組をあわせ、そのための予算水準が現在のGDPの2%に達するよう、所要の措置を講じていく。

4 我が国は、普遍的価値に基づく政策を掲げ、国際秩序の強化に向けた取組を確固たる覚悟を持って主導していく。